

世代を越えて受け継がれる火の信仰と祭り

認定理由

人類は、その歴史を通じ、畏敬と畏怖の念を持ちながら火を操り、文明を築いてきた。1200年を超えて都市であり続け、また、数々の大火を経験してきた京都には、愛宕信仰が生まれ、人々の心に深く刻まれた火伏せの思いは、市民の高い防火意識として今も生きている。また、千年の都として人々の信仰が集まる京都では、精霊迎え・送りや厄除け、祈願成就などのために行われる数々の祭りや行事が、火を重要な要素として執り行われている。京都の火の信仰と祭りは、先人の知恵と思いととも、世代を越えて大切に受け継がれている。

主な構成遺産

1月

左義長祭(とんど)



新熊野神社

小正月に、しめ縄や門松などを焚き上げ、天下泰平・家内安全・五穀豊穡などを祈念する行事。洛中洛外囀に宮中行事として描かれている。宮中から民間へ、京都から全国に広まった。

3月

嵯峨お松明



清凉寺において、釈迦の涅槃会にちなみ行われる行事。高さ7メートルの3本の松明に点火し、火勢の強弱でその年の農作物の豊凶を占う。また本堂前で提灯13基を立て、高低で米や株の相場も占う。京都市登録無形民俗文化財

7月

愛宕神社



社殿

愛宕山頂に鎮座する全国の愛宕神社の総本社で、火伏せの神が祀られている。修験道の開祖とされる役小角(えんのおづぬ)が開いた山岳修験霊場に始まると伝わる。7月31日夜に行われる「千日詣り」にお参りすると千日分の功德があり、3歳までに参詣すると一生火難に遭わないといわれている。



千日詣り



護符

護符(「阿多古祀符火酒要慎」)は地域の愛宕社の分社や愛宕灯籠などへ納めるとともに、家々では、台所に貼り、火除けを願う。

8月

万灯会



六波羅蜜寺

六波羅蜜寺、壬生寺、大谷祖廟(東大谷)などで、お盆の精霊迎えのため万灯を灯して行われる行事。六波羅蜜寺では、かわらけに種油を入れ灯心に火を灯し大の字に並べる。

京都五山送り火



京都の夏を代表する風物詩の一つ。お盆の精霊送りの意味を持つ行事。東山如意ヶ嶽の「大文字」、大北山左大文字山の「左大文字」、松ヶ崎西山(万灯籠山)・東山(大黒天山)の「妙法」、西賀茂船山の「船形」及び嵯峨曼荼羅山の「鳥居形」が、8月16日夜に相前後して点火される。京都市登録無形民俗文化財

松上げ



広河原



雲ヶ畑

京都北山、若狭街道に沿った山間各地(広河原・久多・花脊・小塩(上げ松)・雲ヶ畑)には、地域の愛宕社の祭りとして、「松上げ」と呼ばれる柱松明行事が伝わる。火除けのほか、精霊送りや豊作祈願の要素が見られる民俗行事。京都市登録無形民俗文化財

10月

三栖の炬火祭



三栖神社の若中で構成される炬火会によって行われる行事。神幸祭の前夜、大炬火(だいたいまつ)に火を灯し、神輿巡幸の先導役として巡行する。京都市登録無形民俗文化財

鞍馬火祭



由岐神社の祭礼。この地に由岐大明神を勧請した際、村人が松明を持って付き従い、かがり火を焚いて迎えたことに由来する。京都の秋の風物詩。京都市登録無形民俗文化財

岩倉火祭



旧岩倉村六ヶ町の氏子から成る宮座という祭祀組織による行事。小松明、剣鋒、御供を持って石座神社に集まり、雄雌の大蛇に見立てた2基の大松明に点火する。京都市登録無形民俗文化財

11月

御火焚



花山稲荷神社

江戸時代から京都で多く行われている行事。10月から12月にかけて、市内各地の神社や寺院、町々の行事として行われ、秋の収穫に感謝し、厄除けなどを願いつつ、護摩木(火焚串)に書かれた願いを祈願する。

12月

をけら詣り



八坂神社

大晦日夜から元旦にかけて八坂神社を訪れる参拝者は、火縄にをけら火を授かり、その火が消えないように回しながら家路を急ぐ。この火を種火として雑煮を炊いて食べると一年間無病息災で過ごせるといわれる。京都の年越しを代表する風物詩